

# 令和 6 年度

## 総務文教常任委員会 観察研修報告書

### ○ 観察日程

令和 6 年 1 月 11 日 (月) 10:00~12:00

### ○ 観察先及び目的

・茨城県猿島郡境町

・自動運転バス観察

### ○ 観察参加者

委員長 高野浩一

副委員長 飯島孝也

委員 丸山国一

委員 廣瀬明弘

委員 高畠一幸

委員 青柳好文

委員 相沢俊行

委員 平塚 悟

委員 有賀公子

### ○ 報告書執筆 高野浩一

## 1 観察目的

国内では、人口減少による過疎地域は電車やバスなどの公共交通機関の利用者が少なく赤字体质にあることに加え、運転手の人材不足により減便や廃止されるケースが多くある。

甲州市においても同様な現象が起こっており、特に山間部では1日に数本のバスの運行があるだけで、マイカーを持っていない高齢者は買い物や病院に行きたいときに行くことが困難な状況である。

こうした中、交通弱者及び交通難民の移動手段を確保するためにも、新たな交通手段を模索することが必須であることから、「自動運転バス」において国内でも有数の先進地である境町の取り組みを観察した。

甲州市の山間部に住んでいる方も、マイカーを持たない方も、更には甲州市を訪れる観光客にも安心して移動ができる「自動運転バス」について調査・研究し、住み易い街づくりに取り組んでいく。

## 2 観察訪問先

(株)さかいまちづくり公社

## 3 説明者

BOLDLY (株)

市場創生部 石川様



## 4 観察内容

### 4-1) 境町の課題

茨城県の西南部に位置する境町は、鉄道路線がなく自動車が地域住民の交通手段を支えている。現在、最寄りの鉄道駅は自動車で30分程度かかり、路線バスはあるものの地域内の公共交通インフラが弱く、住民の高齢化が進んでも自動車を利用しないと移動手段がなく、なかなか高齢者も運転免許の返納ができなかったり、若者が東京に行きづらい等の課題を抱えていた。

### 4-2) 課題解決策として「自動運転バス」の導入

町長の発案から「自動運転バス」の導入が動き出した。

そこには、町の課題と危機感を共有する議会との連携があり、即断、即決を可能とした。時系列で説明すると、下記の通りである。

2019年11月：発案

2019年12月：自動運転を手掛ける会社と面談

2020年1月：議会で予算承認

同月：町民試乗会

2020年11月：町内での走行開始



#### 4-3) 費用対効果

自動運転バスの運用にかかる費用は、2020年4月から2025年3月までの運行準備期間を含む5年間で約5.2億円。2021年度からは事業費の2分の1は地方創生推進交付金が交付されるため、残りは境町の予算でまかなっている。但し、境町からの支出はふるさと納税を活用しているため、実質的には町の持ち出しがゼロである。

全国では、この境町モデルを取り入れて、横芝光町（千葉県）、多気町（三重県）、岐阜市（岐阜県）などが自動運転を導入している。

補助金頼みや赤字路線の運営では無く、持続可能な運営が構築されており、甲州市も大いに参考にするべきスタイルである。



地域活性化、社会貢献としては、地域住民から下記のような声が届いている。

- ・買い物にいけるようになった
- ・塾の送り迎えがいらなくなった
- ・免許を返納しても生活できる見通しがついた
- ・境町に来る人が増えた
- ・東京駅行きの高速バスと接続で交通が便利になった

また、経済効果としては、テレビ放映や、新聞・メディア掲載、高速バス乗車数アップ等、およそ7億円と試算している。

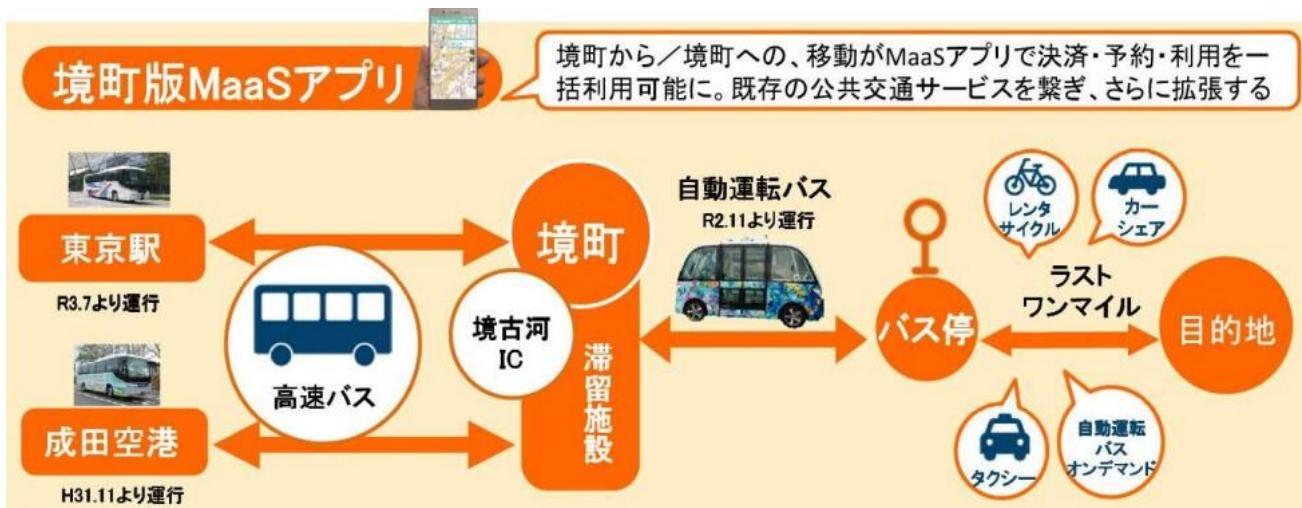
#### 4-4) 5年後の未来

2020年の運行開始時は1ルートのみであったが、その後2021年には2ルート目、現在ではバス停も増やして3ルートまで拡大している。

今後は町民ニーズに合わせ運行ルートを順次延伸していく予定。現在5ルートまでの構想がある。

さらに将来的には、顔認証システムを導入して最小限の手続きでスムーズな乗降を目指している。また、カーシェア・サイクルシェアとの連動も視野に入れていて、「自動運転バス」の運行ルートの先にある目的地にまで足を運べることを目指している。

境町の5年後の未来は「誰もが生活の足に困らない町」になることが想像できる。



## 5 所見

市当局と議会が問題意識を共有する中で、驚くほどの短期間で「自動運転バス」の導入が実施されたことは評価できるものである。更に、運営面でも国の補助金の有効活用と、ふるさと納税を未来に向けて投資する考え方はとても参考になった。

現在、国は自動運転レベル4相当を増やす方針で、2025年度をめどに全国で50ヶ所、2027年度をめどに100ヶ所にする目標を掲げている。

国が進める事業には当然補助金も付いてくる訳であり、加えて甲州市にはふるさと納税の財源も多少はあるため、躊躇する理由は何処にも見当たらない。

甲州市が「自動運転バス」を取り入れる際に課題となるのは、「自動運転バス」は時速20kmで走行するため、境町のように平地でコンパクトな街には適しているが、甲州市のように中山間地が多い街は走行エリアを絞って運用する必要があるのではないかということ。例えば、塩山の街中及び、勝沼のワイナリー集積地は「自動運転バス」を走らせ、この「自動運転バス」に繋がるまでの移動は、どのような公共交通手段が適しているのかを検討する必要がある。

甲州市の脆弱な公共交通機関から交通弱者及び交通難民を守るためにも、甲州市に適した自動運転の導入に向けて、政策の立案と提案をしていきたい。